



令和8年度予算の主な使い道

01

市民生活を守り、安心して快適に暮らせる街

■ヒグマなどの対策 (1億9,400万円)

ドローンなどのICTを活用した出没対策や、捕獲強化のための箱わなの設置、侵入抑制を目的とした電気柵の設置など、人とヒグマのすみ分けのための対策を行う



電気柵を設置している様子

■区役所窓口の向上 (8億2,000万円)

- 「書かない」「待たせない」「同じ説明を繰り返させない」窓口を実現するシステムを導入する(令和9年度モデル実施)
- 春の異動時期に、区役所の土日開庁を行い、市民の利便性向上や窓口の混雑緩和を図る

02

次世代の支援・育成、未来の札幌の成長に向けた投資

次世代を担う子どもへの支援

■学校給食費の支援 (71億6,500万円)

国の交付金などを活用して、令和8年度の保護者負担額が、
小学校：0円
中学校：令和7年度と同額となるように支援を行う

■学校施設や冷房の整備 (355億6,300万円)

老朽化が進んだ学校施設の新改築や、学校の教室・体育館などに冷房を整備する

街の新たな魅力とにぎわいの創出

■大通など都心の再開発事業を補助 (204億7,500万円)

民間活力を活用して、札幌駅交流拠点や大通・創世交流拠点にふさわしい土地の高度利用や、都市機能の更新を図るため、再開発事業を支援する



大通西4南地区完成イメージ

03

持続可能な観光都市としての発展

■さっぽろホワイトイルミネーションのリニューアル (3億300万円)

大通会場(1丁目・3丁目)のイルミネーションの大規模なリニューアルや、駅前通のイルミネーションをレベルアップする



さっぽろホワイトイルミネーション 大通会場1丁目

可決した主な意見書 (概要)

交通事故による脳脊髄液漏出症患者の救済に向けた自賠責保険制度の改善を求める意見書

脳脊髄液漏出症は、交通事故やスポーツ外傷といった身体への強い衝撃により、頭痛やめまいなどの多種多様な症状が複合的に現れる疾患です。

本疾患の後遺障害認定を巡っては、労災保険では、障害等級12級に認定された事例が一定数存在する一方で、自賠責保険では、専門的な審査体制がなく、また調査内容や根拠資料の開示が不十分であり、的確な後遺障害認定が行われていないとの訴えが上がっています。

そこで、国会および政府に対し、次の措置を講じるよう強く要望します。

- ①自賠責保険における脳脊髄液漏出症の後遺障害等級認定手続きについて、医学的知見を有する専門医等が審査に関与する体制を構築すること。
- ②自賠責保険の後遺障害等級認定における審査過程の透明性を向上させるため、調査内容や根拠資料を被害者が検証可能な形で開示する制度を整備すること。

上記を含む可決した2件の意見書の全文は、市議会ホームページ (<https://www.city.sapporo.jp/gikai/html/ikensho.html>) に掲載しています。

意見書はこちら⇒

